

"HF DXer の社会貢献提案"

JA1BRK 米村 太刀夫

E-MAIL ja1brk@fa2.so-net.ne.jp

小電力での遠距離通信が可能な HF 帯を開拓したアマチュア無線の先輩が残した功績により、我々は今日でも電波という貴重な資源を使っています。このお返しとして HF を愛する DXer は社会貢献というカタチで報いることが好ましいと考えます。

一般の新潟地震の際、ボランティアで災害地に入ったバイクを愛する友人の話を知ると、山岳地であったため山や丘を越しての通信が困難で苦勞したとのことでした。そこで普段は DX を楽しんでいる我々がちょっとした準備とその意識を持てば、非常時の通信の分野で役に立つことができそうです。

災害はいつでもどこで発生するかわかりません。第一段階として全国の DXer が非商業電源で電波が出せる準備をします。最も簡単なのはクルマから DC12V を得て、これで動作する無線機に接続します。インバータで AC100V を得ても良いでしょう。

理想的なのは発電機です。災害地は概ね 4 日で電気が戻ってくると言われていますから、この間を自家発電で過ごせば無線はもとより電灯、冷蔵庫の中に貯蔵した食品を傷めることなく過ごせます。あくまでもボランティアですから、通信の可能性で「大風呂敷」は避け

たいと思います。

災害地は携帯電話や普通の電話、インターネットも途絶する可能性が高いので、電送出来るデータで最も適しているのは「災害難民」「帰宅不能者」の安否情報を災害地から自宅へ QSP するのも一案です。

そして国内の移動運用や海外の小規模な DX ペディションでの経験も役立ちます。第二段階として小型の HF 機とワイヤーアンテナ、そして何かの電源を一箱に収容しておき、要請があれば災害地あるいはその前線基地に向かえる準備も始めましょう。いつ起こるか予測できない災害に対していつでもお役に立てるように、定期的にテスト運用をしたいと思います。当初は DX クラブや移動運用を愛好するグループ毎に時々「演習」お願いします。

HF の DX を愛好するアマチュア局は通常大きなアンテナを建てています。私達にとってはこのアンテナはとても美しく見えるのですが、一般的には「目障り」かも知れません。しかし災害時に通信の分野で役立つことを知ってもらえればその見え方も異なってくるでしょう。「情けは人の為ならず」なのです。皆さんのご協力をお願いします。